

# 教職員の働きやすい環境づくりプログラム 【改訂版】

宮崎県教育委員会 平成28年3月

教育の質の向上を図っていくためには、何よりもまず、教職員が児童生徒に向き合い、本来の教育活動に専念し、「やりがい」や「充実感」を感じながら、その能力を発揮できる「働きやすい環境」をつくることが重要です。

そのために、平成27年2月に「教職員の働きやすい環境づくりのためのアンケート」を実施し、その結果から見られる主な課題を明確にして、県教育委員会・市町村教育委員会、管理職・教職員が一体となって、その課題を解決するための取組を進めていくこととしました。

## 働きやすい環境づくりのための重点課題

アンケートの結果から、次のように重点課題をまとめました。

- 授業や児童生徒と接すること以外の業務内容・業務量の多さ（会議等の多さも含む）、業務の配分・分担の偏り（特に学級担任の業務量）
- 部活動の指導時間の長さ、負担感の大きさ（特に中、高等学校）
- 生徒指導に関する負担感の大きさ（特に中学校）
- 家庭ですべき教育内容まで学校に求められることへの負担感の大きさ
- メンタルヘルスへの意識の低さ

## 教職員としての「やりがい」「充実感」

### 私を変えた先生との出会い

・・・略・・・

私が3年生の時に会ったY先生は、大人になった今でも思い出す、いつまでも心に残る先生です。「あっち向いてホイをする虫だよ。」と面白おかしく紹介してくださったオオスカシバの蛹や校庭を散策中に現れたヘビを捕まえ、私達に触らせてくださったことは、大人になった今でも鮮明に覚えています。どんなことでも自分で見て触れて知ることが大切だと教えてくださる先生の一挙一動が面白く、クラスの皆が先生にくぎ付けになりました。

また、先生は、どんなに小さなことでも良いことは認めてくださり、やる気をもたせてくださいました。先生と会おうまで引っ込み思案で人前に入る自信がもてなかった私ですが、そんな私を励まし、よい所を見つけてはクラスの皆や両親に伝えてくださいました。先生から頂いた「チャレンジ」という言葉が一步、また一步と踏み出す勇気をくれ、チャレンジする事の楽しさを知り、学校生活を楽しむことができました。そして、幼いながらも、それまでとは違う自分の中の変化を確かに感じる事ができたのです。

また、昼休み時間になると、竹トンボを小刀で作ってくださることもありました。・・・略・・・

県教育委員会募集「私を変えた先生との出会い」エピソードより「教育ネットひむか」（<http://himuka.miyazaki-c.ed.jp/episode/index.html>）に22作品を掲載中



教職員は、人の成長に携われる魅力的な仕事なんだと改めて感じました。このエピソードのように、教職員が児童生徒にしっかりと向き合っていくためにも、「働きやすい環境づくり」について学校、教育委員会、関係機関等が一体となって取り組んでいきたいですね。

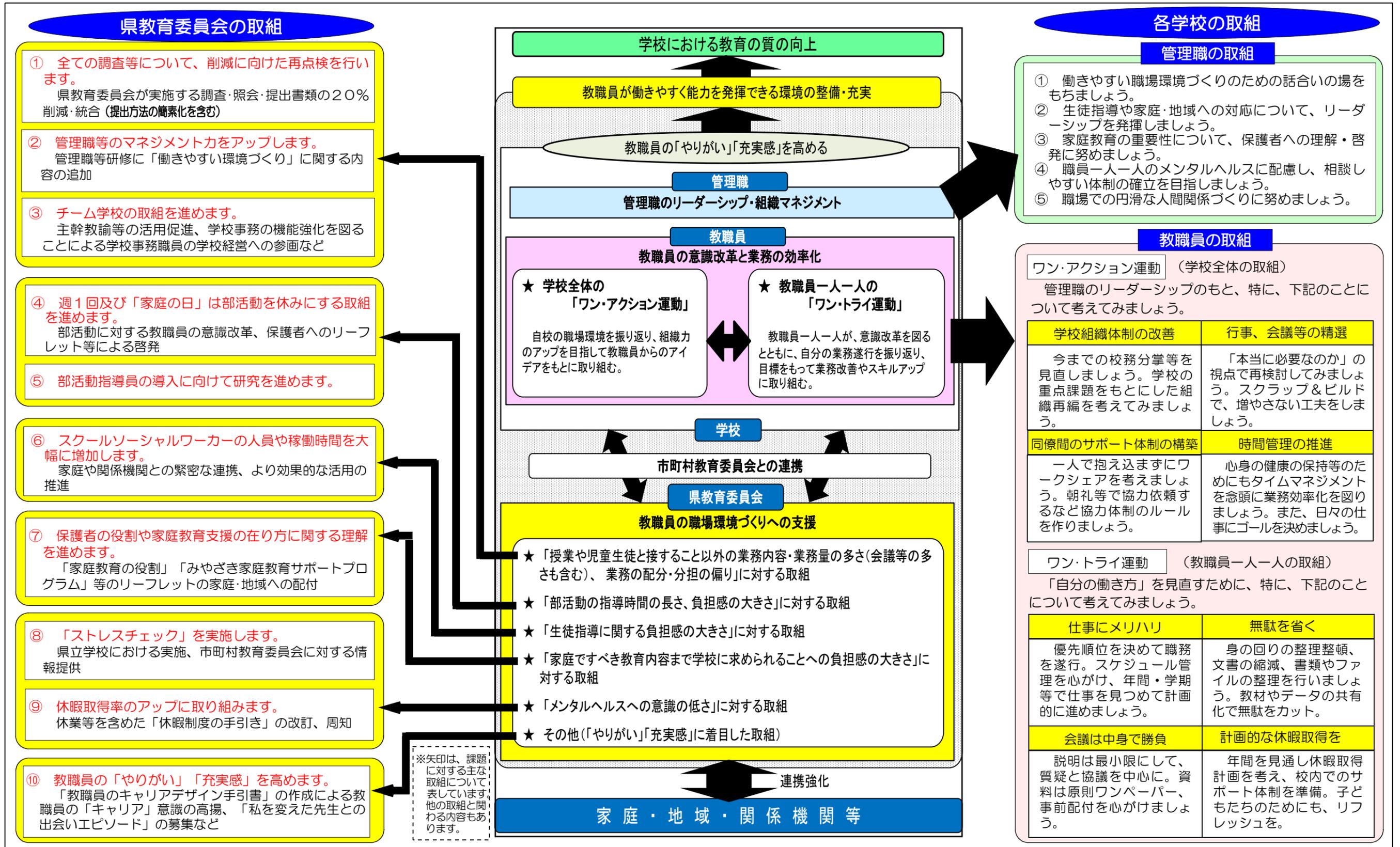
# 「教職員の働きやすい環境づくりプログラム」【改訂版】の全体像

県教育委員会では、働きやすい環境づくりのための重点課題について、市町村教育委員会と連携しながら、下記のことについて取り組んでいきます。学校では管理職のリーダーシップのもと、業務効率化やメンタルヘルス等の取組を更に進めていきましょう！

リフレッシュデイの推進など、これまで効果のあった取組は、今後も検証をしながら、継続して取り組みます。

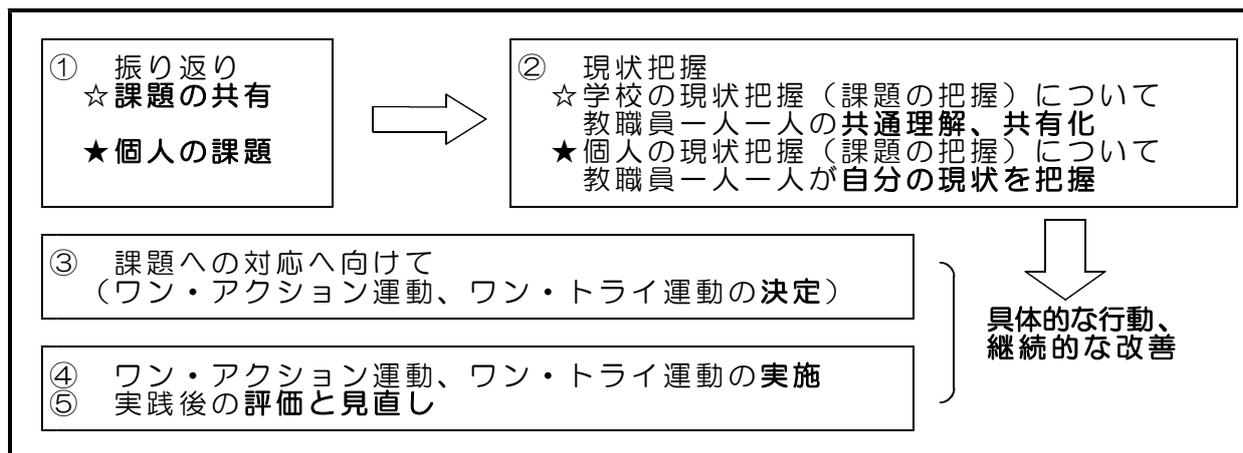


## <「教職員の働きやすい環境づくりプログラム」【改訂版】の全体像>



## 学校での取組（管理職・教職員）

### 1 「ワン・アクション運動」・「ワン・トライ運動」の進め方



### 2 実践プログラムの流れ

時期	管理職	学校全体	教職員一人一人
4月 ～ 5月	働きやすい環境づくりについて、3年程度の計画を検討する。	4つの取組内容について、学校の状況を振り返り、課題について整理する。	4つの取組内容について、自分の状況を振り返り、課題について整理する。
県教育委員会が「ワン・アクション運動」等の取組を依頼			
	働きやすい環境づくりのための話合いの場をもつ。	「ワン・アクション運動」についての共通理解を図り、取組を決定する。	「ワン・トライ運動」を決定する。
5月 ～ 2月	生徒指導や家庭・地域への対応について、リーダーシップを発揮する。 家庭教育の重要性について、保護者への理解・啓発を図る。 メンタルヘルスに配慮し、相談しやすい体制を確立する。 職場の円滑な人間関係づくりに努める。	「ワン・アクション運動」への具体的な取組を行う。 	「ワン・トライ運動」への具体的な取組を行う。 
2月 ～ 3月	働きやすい環境づくりのための取組の成果・課題等についてまとめる。	「ワン・アクション運動」の評価と見直しを行い、次年度の取組につなげるようにする。	「ワン・トライ運動」の評価と見直しを行い、次年度の取組につなげるようにする。
県教育委員会が「ワン・アクション運動」等の取組に対するアンケートを依頼			
翌年度 4月 ～ 5月	県教育委員会が「ワン・アクション運動」等の取組の好事例等をホームページに掲載		
	好事例等を参考にして、取組の再検討を行う。 働きやすい環境づくりのための話合いの場をもつ。	「ワン・アクション運動」についての共通理解を図る。 好事例等を参考にして「ワン・アクション運動」を決定する。	「ワン・トライ運動」についての共通理解を図る。 好事例等を参考にして「ワン・トライ運動」を決定する。

以下同じサイクルで年度ごとで取組を実施します。

今後、県教育委員会の取組状況、学校における好事例等をホームページで紹介していきます。

問合せ先 宮崎県教育庁 教職員課 人材育成担当  
 TEL 0985-26-7241 FAX 0985-28-2757